

2014.12.6 22:36

大川小の被災校舎保存を訴え 卒業生ら「震災忘れないでほしい」

東日本大震災の津波で児童・教職員計84人が死亡、行方不明となった宮城県石巻市立大川小の卒業生6人が6日、東京都内で開かれた子供の権利を考える集会に参加し、「震災を忘れないでほしい」と、被災校舎を震災遺構として残したいとの考えを発表した。

校舎保存には地元でも賛否両論があり、卒業生は住民から意見を聞くなどしながら、保存を求める活動を続けている。

震災当時、6年だった高校1年の浮津天音（うきつ・あまね）さん（16）は「校舎を残したいと考えている人がいると知ってほしい。私たちができることは語り継ぐことだ」と力を込めた。

震災遺構の保存の可否を検討する宮城県の有識者会議は、被災校舎を議論の対象外としている。



被災した宮城県石巻市の大川小校舎を震災遺構として残してほしいと訴える佐藤そのみさん＝6日、東京都渋谷区